

GCOE 国際会議出席報告書 (外国旅費用)

拠点リーダー 川合 光 殿

(ふりがな) 氏 名	さとう だいすけ	所属・職名	指導教員名 (院生の場合)
	佐藤 大輔	核理論・D2	国広 悌二
Tel,Fax e-mail	d-sato@ruby.scphys.kyoto-u.ac.jp		
発表題名	Fermionic Spectrum at Ultrasoft Region in a Hot QED/QCD Plasma		
著者名	Daisuke Satow, Yoshimasa Hidaka		
会議名称 ・開催期間	The 19th Particles and Nuclei International Conference (PANIC11) 自 2011 年 7 月 24 日 ~ 至 2011 年 7 月 29 日		
開催地 (国、市)	アメリカ合衆国、ケンブリッジ市		
出張期間	自 2011 年 7 月 23 日 ~ 至 2011 年 7 月 30 日		
国別参加者数	300 人程度 (国籍: 日本、アメリカ合衆国、フランスなど)		
<p>発表内容、聴衆の反応、質疑応答、その他について簡潔に記述してください。 (口頭発表・ポスター発表の別も文中に明記すること。)</p> <p>会議では全体的に、出張者の専門である高エネルギーQCD だけでなくニュートリノ振動や標準模型を超えた物理なども含む、非常に広い範囲を議論する研究会という印象を受けた。</p> <p>出張者の研究内容は、有限温度の QED/QCD において低エネルギー領域に新奇なフェルミオンの励起が存在するというものである。 その内容について出張者は口頭およびポスターによる発表を行った。それぞれについて記述する。</p> <p>○口頭発表 20-30 人程度のパラレルセッションにおいて発表を行った。 聴衆には著名な研究者である Blaizot 氏や Wanbach 氏、Karsch 氏などもいた。 発表時や質疑応答時の感触から、出張者の研究に対し聴衆が比較的興味を持っていたと感じられた。 具体的には、出張者の見つけた励起モードが重イオン衝突実験で観測できる可能性や、そのモードの強度のオーダー評価などが議論された。</p> <p>○ポスター発表 著名な研究者である Blaizot 氏を含む 5 人に説明を行った。 彼らと活発な議論を行い、全員に研究を十分に理解してもらえたという感触を得た。 具体的には、申請者が用いたフェルミオンセクターの解析手法と従来からあるボソンセクターの解析手法との相違点などが議論された。</p>			